

【参考資料①】

宇都宮藩戸田氏の離宮「御山屋敷跡」



※左 御山屋敷庭中の図 右 御山屋敷跡から望む筑波山

御山屋敷とは宇都宮藩主戸田氏別邸の通称。

1731年藩主戸田忠真による拡張により9000坪（約30000㎡）をこえる敷地面積を誇る敷地となった。

田川のほとり、現在の旭陵橋を越えた丘は、木々が生い茂り、四季折々に花が咲き、周囲を一望に見渡せる宇都宮第一の景勝地といわれていた。

遠くは筑波山を見渡すこともでき、五街道が奥州街道と日光街道に分かれるいにしへのハブステーション宇都宮が誇る史跡の一つ。

普段は敷地に入ることができなかったものの、毎年2月の初午の日に限って一般に開放され、庭園内にあった稲荷、八幡の社に参拝することができた。

現在でも土地の方によって社の保存が行われている。



注) 五街道

徳川幕府によって整備された当時から世界最大の都市であった江戸を起点とする経済の大動脈。

京都へ向かう東海道・中山道。東北へ向かう奥州街道。山梨を通り長野県下諏訪へ向かい中山道と合流する甲州街道。宇都宮から奥州街道と分岐し日光へ向かう甲州街道がある。この五街道が交わる宇都宮・下諏訪・大津は当時から交通の要衝として大変な賑わいを見せた。

場所：栃木県宇都宮市西原町195-2 リアンコーポレーション本社「LIEN BASE」内